

めざせ!大平ふれあい家族幼児体験事業 (京築地区幼児体験活動実行委員会)

1 プログラムの概要

(1) ねらい

- 親元から離れ地域の人々や自然とふれあう活動を通して、自主性・自立性をはぐくみ、たくましく生きる力を身につけた子どもを育てる。
- 地域の人たちの参加を通して、地域全体で子育てを考える気運を高める。

(2) 期間・場所 平成19年8月31日(土)～9月1日(日) (1泊2日)
福岡県立「ふれあいの家京築」

平成19年9月15日(土) 上毛町立大平保育所

(3) 参加者数 園児：24名 引率者5 指導者：26名(地域ボランティア)

(4) 日程

時間	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
31日 (金)				出発	入所式	郷土料理に挑戦 昼食		昼寝		野外活動 虫とり探検		野外調理 夕食		入浴	読み聞かせ 花火		就寝
1日 (土)		起床 散歩 朝食		昔遊び 竹水鉄砲 クラフト		昼食 <small>ソープを流し</small>		思い出 発表会 退所式									

時間	9	10	11	12
9/15 (土)		受付	活動報告 体験活動の 啓発	実技・講義 「エンジョイ!親子でリ トミック」

(5) 主な活動状況

ア 郷土料理に挑戦 (1日目 11:00~13:00)

- 準備するもの 地元の食材(米、団子粉、野菜、梅干)
- 子どもの様子 ボランティアグループ「食進会」の方々と一緒に、おむすびと団子作りを行った。最初は規格通りの団子を作っていたが、そのうち「へびだ!」「せんべいだ!」とみんなでわいわい楽しそうに個性的な団子を作っていた。
次に、事前に園で子どもたちが漬けた梅干を使っておむすびを作った。自分たちで作った料理の味は格別なようで、野菜が苦手な子どもや食の細かい子どももみんなたくさん食べていた。
- 留意点
 - ・子どもの食品アレルギー等の有無について事前に確認し配慮した。
 - ・地元の食材のよさについて、食進会の方に説明して頂き、地域の食文化への関心を高めた。



イ 野外活動 —虫とり探検— (1日目 14:50~17:00)

- 準備するもの 虫かご、網、昆虫図鑑・絵本、救急セット
- 子どもの様子 虫とりが出てくる絵本の読み聞かせで、活動意欲が高まった子どもたちは、大池公園広場で時間も忘れて虫を追いかけていた。どうしても蝉を捕まえられなかった子どもが、網を被せるタイミングをつかんで捕まえることができるようになったり、虫に触れなかった子どもが、両手でバツタを包んで友達に見せたりするなど、時間とともに子どもたちの様子に変化が見られた。



- 留意点 ・行動範囲の確認等、安全指導を徹底した。
・休憩や水分補給を定期的に行うなど、体調管理に配慮した。

ウ 昔遊び—竹水鉄砲—（2日目 8:30～9:30）

- 準備するもの 竹製水鉄砲、的、テーブル、バケツ
- 子どもの様子 ボランティアグループ「よらん会」が手作りした竹製の水鉄砲を使って、水遊びを行った。子どもたちは、的当てをしたり、遠くに飛ばすことを競ったりして楽しんでいた。そのうち水のかけあいが始まり、ボランティアの方々と一緒に走り回る子どもたちの元気な声が広場に響き渡っていた。



- 留意点 ・相手の顔に向けて水をかけない等の基本的なルールを決めておいた。
・活動後の着替えを準備させておいた。

エ 思い出発表会（2日目 12:30～13:00）

- 準備するもの 紹介したい作品等（クラフト、虫）
- 子どもの様子 一緒に体験活動を行った地域ボランティアの方々、そして迎えに来た保護者が見守る温かい雰囲気の中で、1泊2日の宿泊体験活動で一番楽しかったことや頑張ったことを発表した。
- 留意点 ・子どもが発表する際に作品等を見せながら発表させるようにした。



2 子ども・保護者等の感想

(1) 子ども（家で話した感想）

- 身近にバッタやトンボがいるのに捕まえてみようとは思わずに過ごしてきた、初めて網と虫かごを持っての昆虫採取は楽しかったのでしょうか。帰ってきて虫とりかごと網を放さずに外でまた虫を取っていました。
- 団子作りでは「粘土みたいでおもしろかった。おにぎりも作っておいしかったよ。」「おいちゃん達が花火をたくさんしてくれたよ。『おやすみ』で書いてくれたのがうれしかったよ。」楽しいことうれしいことばかり話してくれました。

(2) 保護者

- 幼児期に親元から離れ、地域の人と接し、宿泊体験をさせていただき感謝しております。自然に囲まれてすみやすい地域にいながらもなかなか親子や友達どうしで外に出て虫とりなど自然と触れ合うことなどなく過ごす毎日で貴重な体験ができたと思います
- 親が危ない危ないと思っていたことがいつの間にかできるようになっていて、少々危なくても「自分でさせる」というのを親がしっかりそばで見守って身につけさせてやれば、子どもも伸びるんだなあとの宿泊体験をとおして親子共々勉強になりました。

(3) 指導者等

- グループ活動を通して、みんなで何かをする楽しさや地域の人との交流、楽しい昔遊びを子どものペースで体験できたことで、自分に自信を持ち少し成長したようです。

3 成果と課題

(1) 成果

- 上毛町で3年連続実施したことで、ボランティアグループ間の連携も深まり、地域ぐるみで子育てを行っていかこうとする気運が高まってきた。
- 保護者が体験活動等の重要性を認識し、事業継続を希望している。また、保育所も次年度以降、独自に宿泊体験事業を実施していかこうとする意識が芽生えてきた。

(2) 課題

- 保育所と地域が日常的に連携・協力できる体制作りが必要である。
- 地域と連携するために核となる人材の掘り起こしや育成が大切である。
- 保育所が自主的に宿泊体験活動を企画・運営できるための具体的な支援が必要である。